

学校組織

分野の概略

学校組織開発コースは、新たな社会のあり方を見据え、それに対応できるように以下の三つの力量を高めることを通して、学校を実際に変革していくことのできるリーダーの育成を目的としています。

- ① 学校改善に関する知識理解 教育法規・政策と社会動向、リーダーシップ論等の公教育の今日的状況に関連する基礎知識の理解
- ② ビジョン形成力 学校(地域)の目指すべき将来ビジョンを描き、それに向けて計画を組織的に策定する力
- ③ 改革のスピリット 広く可能性を探ったうえで前例踏襲主義と決別して、他の教職員や関係者を巻き込んで自らの行動に移していくマインド

この目的のため、全てのコース教育活動は相互に関連づけながら、体系的に配置されています。学校組織開発コースでは分野が細分化されておらず、また必修科目が多く設定されていますが、これは科目間のヨコのつながりを保障し、同時にコースに所属する大学院生相互の学びを促進するためです(修了要件の枠外で他コースの科目を選択することは可能)。大学院在学中から実際に学校現場の組織的改善にチャレンジしながら、実践的に学ぶのがこのコースの特徴です。

教員と専門分野

菅野 文彦	教育学・西洋教育史
武井 敦史	学校組織・リーダーシップ論
渋江かさね	生涯学習・成人教育
島田 桂吾	教育行政学・幼児教育政策
福島 貴子	学校経営・教育工学
宮島 明利	教育政策・学校経営

主な授業科目

教育政策の流れと学校論
 教育法制度の理論と実際
 学校改革の理論とリーダーシップ
 成人の学習の事例と理論
 学校と地域の協働
 夢の学校づくり・学校改善への実践論

探究テーマ例

- ・新しい学力(汎用的能力)の育成と教科横断的な視点に立つカリキュラム・マネジメントの開発
- ・グローバル規模の産業構造変化に対応するキャリア教育とそれを支える学校組織のあり方
- ・コミュニティスクールの仕組みや民間の教育資源等を活用した学校と地域の連携・協働の推進と持続可能な地域社会の構築
- ・保・幼・小・中の学校段階を超えた一貫したカリキュラムづくりとそれを支える組織間連携のあり方
- ・教員育成指標を踏まえた教員の成長支援と教員の新しいキャリアモデルの構築
- ・予測の困難な変動社会(VUCA)におけるキャリア形成と大学入試改革の動向を踏まえた高校教育改革

教育方法

分野の概略

本分野は、これまでに現職派遣院生(静岡県教育委員会、静岡市教育委員会、浜松市教育委員会からの派遣)と学部卒院生103名(うち学部卒修了生34名)が修了し、修了生は県内外の小中高等学校、教育機関で活躍しています。本分野の人材育成の大きな目標は、単元レベルの授業研究を率先して行える授業力量を修得し、授業改善に貢献できるニューリーダー及びミドルリーダーを育成することにあります。学部卒院生及び現職派遣院生とともに、授業技術、授業分析、校内研修への参加を通して、実践的かつ学習科学、教育方法的な視点等から専門的に学びます。小中高等学校全ての校種に対応しているとともに学習指導要領に即したアクティブラーニング(主体的・対話的・深い学び)の視点、教科横断的なカリキュラム開発等(カリキュラムマネジメント)の方法論を通して、新たな学力観である資質・能力を育成する授業デザインの原理・原則について深めます。これまでも静岡大学のみならず、他大学の教育学部、文学部、理学部等からの進学実績があります。

教員と専門分野

村山 功	認知心理学
石上 靖芳	教育方法学・教師教育学
町 岳	教育心理学
河崎 美保	学習科学
稲葉 英彦	教育実践学

主な授業科目

- 分野必修科目
 - 校内授業研究の応用と評価
 - 資質・能力を育む授業デザインの開発
 - 授業と学習のメカニズム
- 自由選択科目
 - 学校に還すアクションリサーチの理論と実践
 - 教材作成の理論と実践
 - 学校に応じた教育実践の評価
 - 教育実践の開発と評価

探究テーマ例

- 学部卒院生
 - ・教職大学院実習における授業実践と省察との往還による授業力量向上に関する研究－小学校算数科の単元開発とその評価を通して－
 - ・初任者教師の省察を基軸とした授業力量形成過程の研究－小学校国語科の単元開発と実践の取り組みを通して－
 - ・理科を学ぶ意義の実感を目指した授業の効果－中学校・高等学校での授業実践を通して－

- 現職院生
 - ・資質・能力でつなぐ教科・総合連携型単元デザインの開発－小学校国語科と総合的な学習の時間の実践を通して－
 - ・中学校社会科における歴史的思考力の育成に関する研究－歴史的な見方・考え方を働かせる単元開発と評価－
 - ・中学校理科における科学的な思考力育成に関する研究－思考スキルを位置付けた「恐竜の復元」の単元開発を通して－

教科教育

分野の概略

教科教育分野では、主に中等教育教員を目指す学生を対象として、教科の専門性の深い理解と実践に基づく授業力を育成することを目標としています。教科の授業力として、具体的には次の資質・能力を身に付けることを目指し、カリキュラムを設定しています。

- ア 教科内容に関する専門的知識・技能や思考力・判断力・表現力等
- イ 教科の専門性を踏まえた教材開発力、授業構成力等
- ウ 教科内容の概念理解やつまずきに関する子ども理解力等

主な授業科目

必修科目が3科目、選択科目が4科目あり、授業科目名は次の通りです。

○分野必修科目

教科横断的教育課程論

教科学習論(領域名)※人文系、自然系、創造系

教材開発論(教科名)※国、社、数、理、音、美、保体、技、家、英

○自由選択科目

教科内容論(教科名)

教科指導論(教科名)

教科内容演習 A・B(教科名)

教科教育専門研究 A・B(教科名)

上記のうち、特徴的な授業科目の概略次に示します。

【教科横断的教育課程論】

10教科の教員とそれを統括する教員がオムニバス形式で行う授業で、自分の教科のみならず、他教科で育成する資質能力について理解を深め、教科横断的な視点に基づく教科指導力を身に付けます。

【教科学習論】

10教科を人文系(国語、社会、英語)、自然系(数学、理科、技術、家庭)、創造系(音楽、美術、保健体育)の3領域に分けて領域ごとに行う授業で、それぞれの領域固有の子どものつまずきとその要因について理解を深めます。

【教材開発論】

教科ごとに行う授業で、つまずきを克服したり、興味・関心を持たせたりする教材の開発力を身に付けます。

【教科教育専門研究 A・B】

教科ごとに行う授業で、教科内容から関心のあるトピックを選んで、教科内容に関する幅広い知識と教材研究を深めていく資質能力を身に付け、教科の専門性を高めます。



教科教育 国語

分野の概略

教科教育分野(国語教育)では、主に小中学校、高等学校で国語教育に携わることになる院生を対象に、教科の専門性に対する深い理解と実践的な授業力を育成します。

教科教育では国語教育学として教材研究や授業研究に取り組み、教科の内容に関しては、国語学・国文学・漢文学の各分野における専門的な知識や技能を幅広く学びます。国語を教科教育と教科専門との両側面から捉えて学びを深めることを通して、国語に関する確かな理解と実践力の向上を達成します。

学部段階で国語に関する基礎的・基本的な資質・能力を習得した院生には、より実践的な指導力や授業展開能力を身につけることができるよう、また教職経験のある院生には、地域や学校における教科の指導の中核的な役割を果たし得る確かな指導理論と授業展開の方法を習得できるような授業を提供しています。

教員と専門分野

江口 尚純	漢文学・中国古典学
大塚 浩	国語教育学
坂口 京子	国語教育学
中村 ともえ	日本近現代文学
深津 周太	日本語学・日本語史
甲斐 温子	日本古典文学

探究テーマ例

- ・小中高等学校国語科における教材研究と授業研究
- ・国語教科書における文学教材の歴史的研究
- ・文法および語彙指導の探究

教科教育 社会

分野の概略

社会科の授業を行ううえで特に必要となるのは、社会科の学問体系・研究方法に関する知識をはじめとした教科内容についての本質的な見方・考え方(教科力)と、単元構想力・教材開発力・授業実践力をはじめとした教科指導に関わる知識・能力(教科指導力)です。社会科教育分野では、まず、指導教員との相談の上、研究課題を自身で決めます。そして、先行研究と最新の研究動向を踏まえた研究を各自で行い、実習での実践を踏まえながら、その成果を課題研究報告書として発表します。こうした研究活動による教科力と教科指導力の発展が、社会科教育分野で学ぶ人の目標となります。社会科に関連する様々な学問や社会科の指導法を学部以上により深く学習することを通して、理論知と実践知とを往還・融合する新しい知識体系を構築することができるとともに、社会科の専門性や学習理論等に基づく授業力を獲得できるでしょう。

教員と専門分野

矢野 敬一	宗教民俗学
西野 肇	経済学
伊藤 宏二	西洋史・世界史
中條 曉仁	社会地理学
米原 優	哲学・倫理学
佐藤 正志	経済地理学
村井 大介	教育学(社会科教育)・教育社会学

探究テーマ例

- ・社会科における子どもの資質・能力の育成の方法
- ・社会科における教科観の創造
- ・社会科におけるカリキュラムの内容構成の原理
- ・社会科における社会的見方・考え方の形成を目指す単元の開発
- ・社会科における人文・社会科学のアプローチに基づく学習の導入
- ・市民的資質の育成を目指す教育における社会科授業のモデル化
- ・高等学校の地理歴史科・公民科における専門性を踏まえた教育内容・指導方法に関する研究

教科教育 数学

分野の概略

初等教育(算数科)並びに中等教育(数学科)の授業では、数、方程式、関数、図形、確率・統計、微分・積分、ベクトルなど、さまざまな数学的概念を指導しています。このような概念を教室で学ぶ児童・生徒の「知識及び技能」、「思考力・判断力・表現力等」、「学びに向かう力、人間性」を育成する授業とはどのようなもののでしょうか。

教科教育分野(数学)では、生きる力を育む数学教育の探究をするとともに、高度な実践的指導力を身につけることを目指しています。数学教育についての先行研究や実践例を調べ、また、数学の専門的知識についての理解を高めつつ、課題研究のテーマを構想・設定し、高度化実習において理論と実践の往還をしながら、高度な実践的指導力を身につけ向上させていきます。

教員と専門分野

柏元新一郎	数学教育
大和田智義	解析学
谷本 龍二	代数学
四之宮佳彦	幾何学
峰野 宏祐	数学教育

探究テーマ例

- ・生徒のつまづきを解消する2次関数の指導に関する研究
- ・小中高の連携を意識した関数の単元構想の工夫
- ・高等学校数学科におけるアクティブラーニングの導入
- ・数学に関連した理数探究課題の考案

教科教育 理科

分野の概略

教科教育分野の理科教育では、探究テーマを設定して、指導教員の指導の下でテーマを追及し、課題研究報告書としてまとめます。理科は、小学校～高校のいずれの校種においても、高い専門性が求められる教科です。理科の学習から芽生えた子どもの関心に対して、教員が科学的に適切に応え、その関心を高めるためには、教科書の内容よりも幅広く深い知識と実験・観察技術をもち、理科ならではの指導法を高度に身につける必要があります。理科教育では、院生はそのようなスキルを高める教科教育・教科専門の探究テーマに取り組みます。探究テーマは、教科教育、教科専門のいずれにおいても、院生それぞれに適した内容を指導教員と相談して決定します。

教員と専門分野

丹沢 哲郎	理科教育学・生物教育学・アメリカ科学カリキュラム論
小南 陽亮	植物生態学
延原 尊美	古生物学・自然史
古賀 幹人	固体電子理論・磁性理論
郡司 賢透	理科教育学・化学教育論
本多 和仁	レーザー物理学・量子エレクトロニクス
雪田 聡	分子生物学・発生学
加藤 英明	系統分類学・進化学・保全生物学
内山 秀樹	X線天文学

探究テーマ例

- ・中学校理科の考察における協働的な学びを実現しつつ科学的な表現の育成を目指す実践的研究：相互評価活動と考察記述の定型化指導を用いた学習活動を通して
- ・理科学習の意義理解と科学的問題解決能力の関連からの単元開発：「てこのはたらき」の単元に焦点を当てて
- ・「肥料」の文脈に基礎を置いた農業高校における学習実践
- ・シミュレーション教材を活用した高校生の生物多様性の理解に関する研究：生物個体数の時間変化に着目して
- ・高校生の自然体験と生物選好のライフストーリー研究
- ・学校教育における大地の下の空間概念の形成過程とその課題

教科教育 音楽

分野の概略

音楽教育全般に関して広く研究し、初等中等音楽科教育に携わる教員を目指す大学院生を対象として、理論と技能の深い探求と獲得を基盤とした授業実践力の育成を目指します。音楽教育学を基盤として、西洋音楽はもとより諸民族の音楽や我が国の伝統音楽に至るまで幅広い音楽の研究を通して音楽科教育の今日的課題を認識し、課題解決のための実践的研究に取り組みます。1年次は基盤実習、実践的指導力高度化実習Ⅰを軸に、音楽科教育の指導法、教材開発に関する基礎研究を通して自身の研究の基盤づくりを行います。2年次では、実践的指導力高度化実習Ⅱに取り組みながら、自身の教科専門領域の器楽、作曲、音楽教育学に関する個人指導を通して、教科の専門性を高めます。

教員と専門分野

長谷川 慎	音楽教育学(日本音楽)
長谷川慶岳	作曲・音楽理論
後藤友香理	ピアノ
服部 慶子	ピアノ・音楽教育学
東屋敷尚子	声楽・音楽教育学

探究テーマ例

- ・児童の自己有用感を育成する音楽授業の工夫
 - 「気づき」を基盤とするドラムサークルを通して-
- ・生徒がより主体的に音楽に親しむための指導法の工夫
 - 〔共通事項〕を軸として音楽を捉えるための鑑賞授業の開発-
- ・小学校や中学校における「音楽づくり」に関する授業実践についての研究
- ・小学校音楽科における対話的な学びについて
- ・発達段階を踏まえた中学生への歌唱指導のあり方の検討
- ・中学校音楽科教育歌唱分野におけるわが言語の作用

教科教育 美術

分野の概略

美術に対する社会的要求の変化と多様性の中で、学校教育・社会教育の観点に立って創造性や造形力や感性を陶冶する美術教育を追及することをめざします。その主な要点は、①学校教育及び社会教育の観点から、美術教育の内容と方法の一層の多様性と質を追及する、②平面や立体の総合的な造形制作において、新たな研究課題とその表現方法を追及する、③情報メディアに関し、時代のニーズに沿った造形制作の研究課題とその表現方法を追及する、④国際的なヴィジョンに立って、美術作品を鑑賞したり評価したりする能力や新たな造形創造や構想の能力を育成する、等です。理論と実践の統合を目指し、図工及び美術科教育の教育目標・教育内容の変遷について基本的な理解を身につけ、教科の主要な指導方法や主体的・対話的で深い学びを実現する指導方法を学び、新たな教材の開発を試みます。これを踏まえ、美術教育・美術理論及び造形制作を通して総合的力量を備えた美術指導者の育成をめざしています。

教員と専門分野

占部 史人	絵画
名倉 達了	彫刻
川原崎知洋	デザイン
芳賀 正之	美術科教育
高橋 智子	美術科教育

探究テーマ例

- ・中学校美術科における表現及び鑑賞の題材開発に向けた基礎理論の研究
- ・高等学校美術科における創造力と省察力の育成を目指した指導に関する研究
- ・表現と鑑賞領域における美術・デザイン題材の開発及び研究
- ・表現と鑑賞の一体化を意識した題材開発及び指導内容に関する研究